

清正の土木

熊本城調査研究センター 金田一精

※土木・・・道路・河川・港湾・干拓・城郭・城下町整備―普請

1. 「土木の神様」の背景

○清正入国前の肥後

国衆 52 人による分割統治・・・大河川等、広域での開発不可能

天正 15 年（1587）佐々成政 肥後入国→検地強行→肥後国衆一揆

天正 16 年（1588）上使衆検地→肥後 54 万石

天正 16 年 豊臣秀吉から加藤清正へ領地朱印目録→4000 石から肥後半国 19.5 万石へ

○清正入国の目的と役目

朝鮮出兵・・・兵力の増強 1 万人のノルマ

拠点整備・・・隈本城改造、城下町整備、道路整備

豊臣家蔵入地の管理・・・高瀬・熊本平野

経済基盤整備・・・治水・利水による農業基盤整備、南蛮貿易

○清正のお財布事情

19.5 万石の内訳 国衆 2 万石、50%以上が家臣知行⇒**清正直轄約 4 万石**

天正 17 年（1589）に私検地→17.5 万石から 21～22 万石に増→それでも苦しい台所事情

※肥後の生産物 コメ 2.3 万石、大豆 2.2 万石、小麦 2.4 千石、大麦 9.1 千石ほか（文禄 4 年）



領土拡大×→農業生産向上・南蛮貿易

2. 清正の土木事業の記録

○加藤清正文書・・・城・城下町以外はほとんど無い

○絵図

・『慶長国絵図』 慶長 9 年（1604）加藤清正

・『正保国絵図』 正保元年（1644）細川光尚

・『熊本屋舗下絵図』 寛永 6～8 年（1629～1631） 加藤期の熊本城周辺

・『飽田郡図』 正徳元年（1711）

・『茶臼山ト隈本之絵図』 江戸後期？

○地誌

・『国郡一統誌』 北嶋雪山 寛文 9 年（1669）

・『肥後名勝略記』 辛島道珠 元禄 2 年（1689）

・『肥後地誌略』 井沢蟠龍 宝永 6 年（1709）

・『肥後国誌』 森本一瑞 明和 9 年（1772）

・『古今肥後見聞雑記』 寺本直簾 天明 4 年（1784）

○伝記・その他

- ・『御大工棟梁善蔵聞覚控』寛永10年（1633）
- ・『清正記』古橋又玄 1600年代中頃
- ・『続選清正記』寛文年間（1661～1673）
- ・『藤公遺業記』鹿子木量平 天保3年（1832）伝承を手掛かりに「治水・土木・開拓の神」へ
- ・『勝国治水遺』鹿子木量平？
- ・『明治以前日本土木史』昭和11年（1936）
- ・『肥後藩農業水利史』本田彰男 昭和45年（1970）

※一次資料は少なく伝承が多い。

慶長13年（1608）検地帳では70.8万石で天正16年（1588）より18万石増＝清正の新田開発による。→清正の土木事業はあった！

3. 肥後半国時代の土木事業 天正16年（1588）～

- ・隈本城改造 支城の築城
- ・城下町整備
- ・街道整備？
- ・菊池川流域河川改修 白川流域河川改修
- ・港湾整備 高瀬（豊臣家の蔵入地 守るのが清正の役目）・川尻？

4. 肥後一国支配後の土木事業 慶長6年（1601）～

- ・熊本城築城 城下町再整備 天下普請 支城改造
- ・街道整備？
- ・白川 緑川流域河川改修
- ・球磨川流域河川改修
- ・港湾整備 川尻・八代

5. 熊本城・城下町整備と白川河川改修 富田紘一の研究

- ・絵図・発掘事例から白川蛇行を証明
- ・隈本城・熊本城築城過程、城下町形成過程を復元

6. 緑川河川改修

- ・肥後半国時代は小西との境界線→肥後一国支配後の改修
- ・慶長国絵図と正保国絵図の比較でみる緑川改修
→加藤期から細川期にかけて行われた事業

7. 今回のまとめ

- ・「土木の神様」→清正信仰の影響大きい 『藤公遺業記』 鹿子木量平 天保3年（1832）
- ・記録が少なく実態がわからない。確実なのは隈本城・熊本城他築城、城下町整備、白川河川改修。
- ・緑川は加藤清正に始まり細川期に完了か。
- ・その他は今後に・・・